

平成28年度 学校自己評価システムシート 日高市立高萩小学校

目指す学校像	子どもたちが心を耕しながら学ぶ「おらが地域の学校」
重点目標	確かな学力の育成、道徳性・社会性の伸長、健康の増進と体力の向上地域を愛する心の育成

学 校 自 己 評 価		年度評価（2月16日現在）					
評価項目	具体的方策	評価指標	A+Bの割合		達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
			職員	保護者			
組織運営の充実	・学校教育目標（かしく やさしく たくましく）の具現化	1 学習意欲を引き出し、進んで学ぶ児童の育成に努めている。	100	80	企画会、学年会、教科・領域部会が機能し、校長を中心に、教職員が一丸となって、知・徳・体の各分野で学校教育目標の具現化に推進することができた。主体的・協働的な学びへの授業改善、体力向上への取組、豊かな心を育む特別活動・生徒指導の充実を図ってきた。保護者からも80%以上の評価を受けることができた。	B	学校教育目標の具現化に向けて、より一層、教職員の創意工夫を生かした取組を実現していく必要がある。また、知・徳・体それぞれの分野で子どもたちが主体的に活動できる場を設定していく必要がある。学習や体力向上の検定制度を充実する。また、自ら清掃場所を決定したり、学校や地域に貢献する内容や方法を考えさせる。
		2 児童に外遊びを奨励し、体力向上に取り組んでいる。	100	88			
基礎学力の定着	・わかる授業の実践と学習習慣の定着	3 課題を明確にし、わかりやすい授業に取り組んでいる。	100	94	学習課題とまとめを毎回確実に行う授業を繰り返すことにより、子どもたち一人一人にわかりやすい授業づくりを推進してきた。また、ユニバーサルデザイン・アクティブラーニングに焦点を当てた学校課題研究に取り組む、教職員の授業力向上に努めてきた。その結果、保護者評価においても、94%評価を得ることができた。	A	学校課題研究を推進し、どの教室でもわかりやすい授業を展開できるよう、教職員の指導力向上を実現する。一方、日常的に読書に親しむ子どもたちの育成が課題であり、重点的に取り組む必要がある。また、PCやタブレットによる自宅学習システムは、年度当初、長期休業前等に全学級で操作方法を指導し、積極的に活用できるようにする。
		4 授業中の規律定着や読書指導の充実を通して、学習習慣を身につけさせている。	100	95			
社会性人間性の育成	・よりよき人間関係の育成	5 学級活動、学校行事、縦割り活動の充実等、楽しい学校生活づくりに努めている。	95	95	保護者評価「おさんは学校に楽しく通っていますか。」の項目で95%を達成することができた。どのクラスでも落ち着いて授業や学級活動に取り組んできた成果であると考えられる。一方、道徳、人権教育、あいさつの励行については、今年度、学校全体で指導の重点として取り組んできたが、期待する結果が得られなかった。	B	校内美化を優先するため、縦割り清掃は次年度から行わないが、運動会や縦割り遊びを充実し、異年齢集団の交流を通して豊かな社会性を育成し、本校の特色としていく。人権教育をより一層充実・発展させ、2学期末に保護者・地域に公開する。積極的な生徒指導を展開し、自分から進んであいさつができる児童の育成を図っていく。
		6 道徳教育・人権教育を推進し自分から進んであいさつができる児童を育成している。	86	75			
保護者や地域との連携	・学校の公開と学校応援団の活用	7 学校は授業や行事等、教育活動の様子を積極的に公開している。	100	82	写真を効果的に使った学校便りの地域回覧、HP利用や保護者会での学級毎の説明を通じて学校の様子を伝えてきた。	A	HPを更に活用し、学校の教育活動の様子（学年の教育活動等）を積極的に伝えていく。そして、学校公開への参加者を増やす。
		8 授業での学校応援団活用に向け、整備・充実を図る努力をしている。	96	92	学校応援団の協力により体験活動を生かした教育活動を充実させることができた。保護者評価においては、公開に関わる内容が82%、学校応援団に関わる内容が92%の理解・支持を受けることができた。		学校応援団より一層活用することにより、体験活動や心のふれあいを推進していく必要がある。また、幼保小中、日高特別支援学校、埼玉女子短大との連携を強化し、地域の学校としての機能を高めたい。
安心安全な教育環境	・安全安心な学校環境づくりといじめ問題への対応	9 子どもたちを安全に安心して通わせることができる学校づくりに努めている。	98	92	学校では、災害や緊急事態発生に対する安全対策、および、いじめや人間関係等による子どもたちの心の不安の未然防止、早期発見・早期対応に努めてきた。その結果、子どもたちを安全に安心して通わせることができる学校づくりについては92%、いじめに関しては89%の評価を受けることができた。	A	各種危機管理マニュアルを再検討し、適切に活用できるように見直ししていく。特にアレルギー対応、AEDの使用に関しては、年度当初に全職員で研修を実施し、共通理解を図る必要がある。また、いじめの未然防止、早期発見・早期対応が適切に行われるよう、毎月一回の定例会の他、保護者・地域・関係諸機関との協力連携体制を充実させる。
		10 学校はいじめの早期発見・早期対応に努めている。	100	89			

※達成度 「A」ほぼ達成(8割以上) 「B」概ね達成(6割以上) 「C」変化の兆し(4割以上) 「D」不十分(4割未満)

学校関係者評価
実施日 平成29年 2月 16日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>・授業態度を見ていると非常に落ち着いている。子どもたちが明るく学んでいる。あれを見ると大きないじめは感じない。年々学校としての中身、形がよくなっている。6年の授業参観のようすから、子どもたちは、みんなで、グループでアクティブラーニングを行うことに慣れてきていることがわかった。これからの時代を生きていくための資質を養う上で、非常にいいのではないかと。また、子ども同士のわりを重視した授業によって、いじめの防止にもなると思う。</p> <p>・アクティブラーニングを見ることができて、おもしろいなと思った。課題の選び方や与え方、一緒に悩み考える学習、時々先生が廊下に出て、グループの意見を聞いたり指導をしたりするようすから、本当にうまいなあと思った。</p> <p>・読書指導の充実が必要である。算数でも学年が上がっていくと読解力が求められる。文学離れが進んでいる。読みたい本の確保をした。</p> <p>・学習の充実がいじめの予防になるという意識で中学校でも実践したい。また、あいさつはもっと広い範囲で元気にできるよう、小中が連携してあいさつ運動を展開していきたい。自宅学習システムについても連携していきたい。</p> <p>・どの教室も落ち着いて授業ができていて、授業改善にも取り組んでいるので、学力が上がるにつれてと考えると考えられるが、まだ成果が出ていないようだ。</p> <p>・ホームページを日々更新しているのは、他の学校にない高萩小学校の取組である。しかし、保護者アンケートでは閲覧する割合が低い。</p> <p>・ホームページ（校長のつぶやき）をよく見てもらって、校長先生の熱意が伝わるとよいと思う。</p> <p>・保護者によるいじめに関わる内容の記述が非常に多い。多くの保護者が、いじめを心配している現状が認められる。（学校が悪いからという意味では無く）</p> <p>・いじめは社会の中でいくらかある人間性の弱さである。中学生の自殺は小学校からいじめが始まっていることが多い。高萩小学校でも、いじめはあるという意識で定期的な防止会議や毎週の報告会などを行っており、努力が認められる。</p>